

## 上野の山便り 2019年 1月

明けましておめでとうございます。皆さまお元気に新年をお迎えのことと存じます。

今年は「亥(い)」年です。亥年の「亥」は「核」、つまり物事の「中心」「芯」という意味です。人間でいえば「自我をしっかりと持っている人」になります。亥年の人の性格はどんな時にも落ち着いていて、自信にあふれた態度で人に接する指導者タイプの人です。また、勇気があって物怖じしないタイプで、辛抱強く何事も最後までやり遂げる意思の強い責任感のある人なので、周囲から信頼があります。

1月1日は「元日」であり、一年の始まりの日です。「元日」は1日を、「元旦」は1日の朝をさします。初詣は三が日の内に行うのが一般的ですが、年明けすぐや、元日の午前中に行くと縁起が良いとされています。

14日は「成人の日」で、大人の仲間入りを祝う日で、毎年1月の第2月曜日です。

20日は「大寒」で、一年で最も寒い日です。この日に生まれた卵「大寒たまご」は健康や金運アップの縁起物で、幸運にあやかって、卵をメニューに取り入れてみてはどうでしょうか。

皆様にとりまして幸多き一年となりますよう心からお祈りいたします。

東京国立博物館平成館・特別展「顔真卿 王羲之を超えた名筆」 眺めているだけで、こころが洗われる	1/16～2/24
国立西洋美術館・「ルーベンス展—バロックの誕生」 ルーベンスとイタリアとの関わりに焦点をあてて	～1/20
国立科学博物館・特別展 明治150年記念「日本を変えた千の技術博」 日本の科学と技術の発祥と足跡を約600点の資料で	～3/3
東京藝術大学大学美術館・本郷寛 退任記念展—黙示— 乾漆、石膏、ブロンズなど多岐素材にわたる塑造作品群を展示	1/8～1/20
東京都美術館・「ムンク展」—共鳴する魂の叫び 油彩の傑作のほか版画や素描など約100点で回顧	～1/20
上野の森美術館・「フェルメール展」それはこのうえもなく優雅な事件 現存作35点のうち計9点を紹介。展示替えも	～2/3
国際子ども図書館・「青い鳥」創刊100年—誌面を彩った作品と画家たち	後期 ～1/20

### 「フェルメール展」

上野の森美術館で2月3日まで開催中です。オランダ絵画黄金時代の巨匠ヨハネス・フェルメール(1632-75)。国内外で不動の人気を誇り、寡作でも知られ現存作はわずか35点ともいわれています。今回はそのうち9点までが東京にやってくる日本美術展史上最大のフェルメール展です。

「牛乳を注ぐ女」「手紙を書く女」「真珠の首飾りの女」「ワイングラス」・・・欧米の主要美術館から特別に貸し出された、日本初公開作を含む傑作の数々が、ここ上野の森美術館の「フェルメール・ルーム」で一堂に会しています。それは、フェルメール本人も目にしたことのないであろう奇跡の光景です。来場者全員に音声ガイドを無料で提供するなど、より快適に作品と向き合えるサービスをしています。フェルメールだけでなく、ハブリエル・メツー、ピーテル・デ・ホーホ、ヤン・ステーンらの絵画約50点を通して、17世紀オランダ絵画の広がりや独創性を紹介しています。

上野の森で出会う奇跡、新たな鑑賞体験を、最大にして、最も贅沢なフェルメール展で、お楽しみください。

上野の山 散歩人 平木巖